

福島県児童交流事業「出会いふれあい体験教室」に関わって

～和歌山県上富田町にある総合型地域スポーツクラブの支援～

特定非営利活動法人くちくまのクラブ

サブマネジャー 平尾好孝

東日本大震災

特定非営利活動法人くちくまのクラブ（以下、呼称「SEACA」）は、和歌山県上富田町（人口約 15,000 人）に、平成 19 年、スポーツ少年団の指導者を中心に設立された総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）です。「地域全体で地域の子どもを育てる環境づくり」をめざして、平成 24 年 10 月現在、未就学児からシニアまで 600 名超の会員がいます。

昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、東北地方の人たちに甚大な被害をもたらしました。東北地方には知人もいましたので、数日経ってからやっとつながった電話で安否の確認をしたのを思い出します。そんな中、福島県の子どもたちは、原発事故による放射能の影響で、学校のグラウンドや公園で遊べない状況だという話を聞きました。

当初は、上富田町が東北の各自治体へ、町による小学生の受入を打診しましたが、各自治体とも、そんな事務的な余力はなく、また沿岸地域もそれどころではありませんでした。

私たちに何かできないか

そこで、上富田町で唯一の総合型クラブで、全国のクラブと日頃から付き合いのある SEACA が、以前から情報交換などでお世話になっている福島市内の総合型クラブの特定非営利活動法人エフ・スポーツさんに、福島大学の黒須先生を通じて依頼したところ、町による福島の小学生の受入への協力について、快く引き受けてくれました。

主催は上富田町青少年育成会議。いつもいろいろな事業を SEACA と共催している教育委員会の外郭団体です。SEACA は支援側の行政や諸機関と現場との橋渡し及び調整を、エフ・スポーツさんは共催として福島の小学生の募集窓口及び期間中もスタッフとして行動を共にしていただきました。

実施期間は、7 月 30 日からの 8 日間で、コンセプトは、「とにかく、震災や原発のことを忘れ、紀南の大自然の中で、思いっきり遊んでもらう！」ということで、ラグビー体験教室やキャンプ、海水浴、熊野古道歩き、花火大会など盛り沢山のプログラムを組みました。中でも人気が高かったのは、キャンプとアドベンチャーワールド（テーマパーク）でした。アドベンチャーワールドでは、パンダが可愛かったという感想が多かったです。

また、期間中は交流による人の繋がりをもってもらうため、同世代の小学生のいる家庭でのホームステイを実施しました。このホームステイ先で過ごした日々が最も楽しかったそうです。



元気をもらう

和歌山から14時間かけて大型バスで福島市に迎えに行き、出発前夜にエフ・スポーツのスタッフとの交流会を行いました。被災地ということで気を遣いながら参加した交流会でしたが、福島のスタッフやその周りで楽しく食事をしている福島市民の底抜けな明るさに、驚きと人間の強さのようなものを感じ、逆にこちらが元気を沢山いただきました。

それは翌朝の出発の時の子どもたちも同じで、「被災地の人」「可哀想」などという無責任な感情を持っていた自分が恥ずかしくなりました。だから、この交流期間中は、「元気になってもらおう。癒してもらおう」ではなく、「一緒に心から楽しむ」という気持ちで過ごしました。

人と人との繋がり そして 絆

今年の夏も2年目となる福島交流を無事終えました。

今年は、福島市内の小学5,6年生27名と上富田町の児童25名、14世帯のホストファミリーの方々と実施しました。

エフ・スポーツのスタッフには、募集の取りまとめや期間中の雑務まで本当にお世話になり、SEACAとのスタッフ交流会では、お互いの親交を深めることができました。また、ホームステイをした家族同士の交流が昨年から続いている話をよく耳にするのは、本当に嬉しいことです。

この交流を通して、お互いを感じたであろう感謝の気持ちやホスピタリティの精神、子どもたちには、これからも常にその気持ちを持っていろんな人と接してもらいたいものです。また、この事業プログラムを組むにあたって、和歌山県紀南地方の様々な団体や観光施設のみなさまに暖かいご支援をいただきました。この方々との繋がりもクラブの財産となっています。

8日間の予算総額は約250万円。その7割強を自治総合センターのコミュニティ助成金（青少年健全育成補助金）や県育成協会運営費、青少年リーダー育成事業などの補助金や各種団体からの活動支援金を活用させていただきました。

今回、総合型クラブの魅力と可能性の大きさ、また行政と協働することにより、その活動の幅が更に広がるのを感じました。

また、できれば、クラブが中心となって行政と協働しながら実施するのがベストです。募集や取りまとめをすることにより、クラブ活動のPRができ、それがクラブ会員の増加にも繋がります。



がんばろう 福島

福島の人たちは本当に元気です。しかし、現実には、福島を離れ転校した子どもたち、沿岸部の復旧がほとんど進んでいない現状、先の見えない放射能対策など、まだまだ課題は山積です。でも、きっと福島の子供たちはこの試練を乗り越えると思います。この事業を通して、本当にたくましくなった子どもたちを見ていると、そう感じさせるものがありました。

私たちにできることはほんの小さなことかもしれませんが、クラブを通して福島の人たちと「一緒に楽しみ、一緒に笑い、一緒に支えあう」という気持ちでこの交流がこれからも続くことを願っています。

※ 本事業にご支援いただいた団体や企業のみなさま

上富田町、福島キワニスクラブ、和歌山キワニスクラブ、田辺ロータリークラブ、熊野古道ガイド、大芝建材、玉置銘木店、熊野高校ラグビー部、白浜海底観光船、アドベンチャーワールド、朝日リゾートホテル、丹生ヤマセミの郷、殿原区、中田食品、白浜温泉旅館協同組合、県育成協会の方々です。

活動支援金や観光施設の無料招待券、ボランティアガイドの申し出など、いろんな形でご支援をいただきました。

本当にありがとうございました。